

# 交通工学

越 正毅

交通工学は往々にして2つの異なった意味に用いられる。一つは traffic engineering の訳語として道路交通の問題を扱う工学の分野の意味であり、もう一つは鉄道、道路、海運、航空等すべての輸送手段を包括して運輸全般を扱う工学分野の意味であり、transportation engineering に相当するものである。

後者の内容はきわめて膨大であって、関連分野も多岐にわたるので、とうてい筆者の手にはおえそうにない。そこで、ここでは交通工学の前者の意味、すなわち「道路交通工学」と限定して参考書の紹介をしていきたい。

① 用語 高速道路調査会編「交通工学用語事典(新版)」(技術書院, 1000 円)は、交通工学関係用語の解説および英和対照が集録されており、英和文献図書の正確な理解のために必要なだけでなく、交通工学における諸概念を把握できるのでこれだけを読んでも良い勉強になるだろう。

② ハンドブック 交通工学研究会編「交通工学ハンドブック」(技報堂, 4800 円)は、この分野ではわが国で初めて刊行されたハンドブックであって、交通工学および関連分野について網羅したものである。実務家のためのデータブックとしても、また、交通工学の専門外の人が必要に応じて簡便に交通工学関連事項を調べるのにも、利用することができるであろう。

③ 一般教科書 埴克郎著「交通工学(山海堂, 650 円)および伊吹山四郎著「道路交通工学」(金原出版, 2000 円)は、ともにわが国に

おける交通工学教科書の先鞭であるといつてよいであろう。前者は初版昭和38年、後者の初版は昭和39年であって、わが国で交通工学を専攻する人びとの集団ができたころである。前者はかなり平易に交通工学入門者のための解説をしたもの

であり、後者はやや詳細に本格的な教科書として書かれている。

米谷栄二・渡辺新三・毛利正光著「交通工学」(国民科学社, 1500 円)は、道路工学との関連にやや力点を置いた教科書で大学および工業高校におけるテキスト的な内容である。

表-1 交通工学シリーズ

巻	著者	書名	定価(円)
1	星 桢 昭 和	交通工学総論	950
2	高 楠 昭 治	交通工学関係法令の概説	400
3	佐 佐 木 綱	交通流理論	600
4	{ 渡 辺 新 三 依 田 浩 三	推計学の交通工学への応用	550
5	{ 枝 村 俊 大 藤 田 郎 二	電子計算機の交通工学への応用	600
6	宇 留 野 藤 雄	交通心理学	850
7	{ 伊 吹 山 太 四 吹 山 太 四	道路の人間工学	800
8	{ 佐 野 恒 博 河 野 一 忠 蔵 下 行	道路の経済効果と投資基準	550
9	{ 細 井 晴 児 小 野 和 日	交通量の予測	600
10	高 田 弘	交通容量	650
11	{ 松 永 典 昭 金 原 昭 昭	交通調査用機器	600
12	池 之 上 慶 一	交通量の変動	550
13	{ 鍛 治 晃 三 中 村 夫 二 谷 藤 晃 二 加 藤 晃 二	道路工学と写真測量	750
14	{ 今 井 勇 孝 井 上 圭 五 山 根 圭 五	都市交通と都市計画	550
15	{ 大 塚 勝 美 木 倉 正 美	道路の長期計画	980
16	{ 岩 塚 滋 大 七 倉 間 宮 正	道路の線形設計	850
17	井 上 広 胤	道路設計における透視図法	800
18	武 上 健 一	交 差 点	400
19	毛 市 利 正	インターチェンジ	600
20	市 原 光 薫	駐 車 場	600
21	越 正 毅	1. 路面の凹凸 2. 路面のすべり	500 600
22	{ 鈴 大 村 忠 義 中 村 忠 義	サービ施設と道路景観工学	900
23	{ 浅 井 新 一 内 山 茂 郎 藤 藤 正 三 野 藤 三 吉	道路標識	800
24	{ 谷 藤 正 三 齊 藤 三 吉	ガードフェンス	700
25	{ 高 井 利 三 金 田 原 正 男	道路照明	600
26	広 川 吉 郎	交通規制	500
27	埴 吉 克 郎	交通信号	700
28	吉 田 滋 彦	高速道路とその運営	850
29	{ 大 久 保 柔 彦 森 尚 雄	交通事故とその対策	850
30	浅 野 信 二	道路交通法とその運用	850
31	尼 崎 禎 三	自動車の運転免許制度	350
32	官 本 晃 男	自動車の構造と装置	450
33	{ 井 川 由 一 柳 沢 一 夫	自動車登録と車両検査	950
34	金 安 公 造	交通公害	750
35	{ 石 井 一 郎 宮 田 郎 努	道路交通情報	750